

ICTを使って授業をより分かりやすく！

「ICT」は、
 Information and Communication Technology
 コンピュータやインターネットなどの情報
 通信技術のことを言います。

授業での ICT 利活用の目的は、ICT を単に活用することではなく、ICT をツールとして活用することによって授業を改善して、子どもたちの学力向上につなげていくことです。

ここでは、授業での ICT の活用例を紹介します。

静止画

電子黒板やプロジェクター等で

見えにくいものがよく見える！

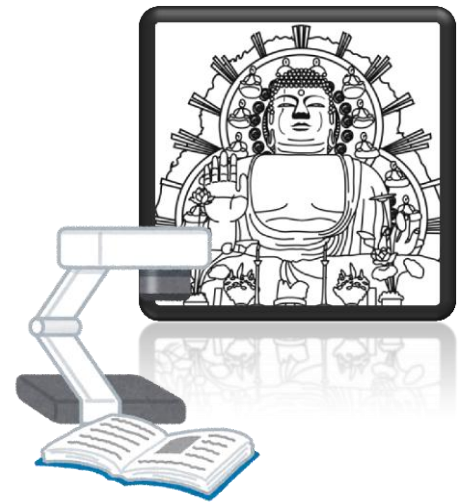
- 微生物の体のしくみ
- 月の表面の様子
- 地球表面の陸地や海
- 世界の国々の街並み
- 世界の美術品や工芸品
- めずらしい動物や植物
- みんなの書いたもの
よく見える！

動画

実物投影機や電子黒板等で

細かい作業の手順や運動や
 場面の様子がよく分かる！

- 運針の仕方
- 彫刻刀の使い方
- 筆先の動き
- 物体の落下の様子
- 火山の噴火のしくみ
- 細胞分裂の様子
よく分かる！



ICT利活用で、

こんな効果が得られます！！

教員の ICT 利活用

- ☆資料提示で意欲喚起
- ☆練習学習で知識の定着
- ☆児童生徒の思考を促進

児童生徒の ICT 利活用

- ☆カメラやレコーダーで資料収集
- ☆資料提示で分かる発表
可能性は無限大！



電子黒板やプロジェクター等で

直接の書き込みをすると

どこを見ればよいかすぐ分かる！

根拠を明らかにして説明できる！

- 教材文で根拠を指し示す
- 着眼点や注目点を示す
- 図形で補助線を引く
- 何をどこに書くか示す
- 画面を保存して活用する
確実に分かる！

タブレット、ICレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラ等で

記録して情報収集、観察、活用

- インタビューをレコーダーで録音
- 体験学習をカメラで記録
- 体育や音楽の実技をタブレットで録画して振り返り
- 実験の様子を録画して考察
- 発表で収集した資料を活用
とても便利！



電子黒板やプロジェクター等で

見せたり消したり自由自在で

- 英単語の読み書き練習
- 国語や英語で暗唱の練習
- 人物や物事の名前など知識を定着させるための練習
- 学習のまとめや振り返り
とても役立つ！

児童生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育む『西部型授業』

8月24日(月)に山内農村環境改善センターで、27日(木)に唐津総合庁舎で「平成27年度西部型授業の模擬授業研修会」を実施いたしました。(25日(火)の白石町総合センターは台風のため中止)

研修会では、前半、先生方に小学校5年生になってもらい、模擬授業を行いました。そして、授業についての説明と研究協議を行いました。後半のグループ協議では、授業での課題を明らかにしたり、各学校の取組を共有したりして充実した研修会となりました。以下に、前半の模擬授業を紹介します。

第5学年 単元名「数の並び方に着目して」(目標: 数や図形を工夫して求める方法を考えることができる)

1 「つかむ」過程

問題場面を把握して本時のめあてを確かめる。

2 「見通す」過程

指導者は児童の発言を取り上げて、考え方の手掛かりを押さえる。不足する場合は付け加える。

3 「考える」過程

ワークシートを使ってどのような求め方があるか考える。紙を切ったり貼ったり、色を塗ったりして考える。求め方を図や式で書き表す。

4-1 「考え合う」過程

ペアを作り、自分の考えを伝えたり相手に質問したりして考えを確かめあう。

4-2 「考え合う」過程

教師による意図的指名で様々な考え方を伝え合い、考えを広げ、よさを認める。

5 「振り返る」過程

「数のならびに注目して、5や10のまとまりを作ったり移動させたりして考えると数が求めやすいこと」を様々な解法を振り返りながらまとめて書く。

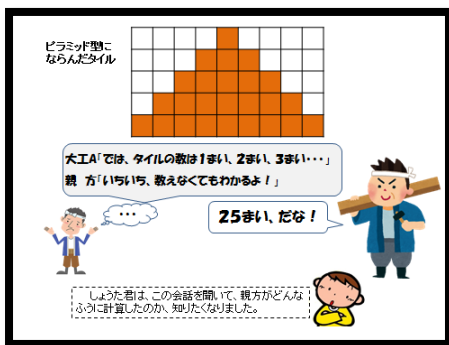


図1 導入の工夫

「つかむ」過程では、電子黒板を使い、大工さんの会話を通して問題場面を把握させます。そして、話を聞いていた「しょうた君」が「どうしてだろう」と疑問に思ったことを「問い」として提示します。これを視聴した児童は、「解いてみたい」と意欲が喚起されるとともに、キャラクターの思考を通して、自ら疑問に思ったことを課題とし、主体的に学習することができます。

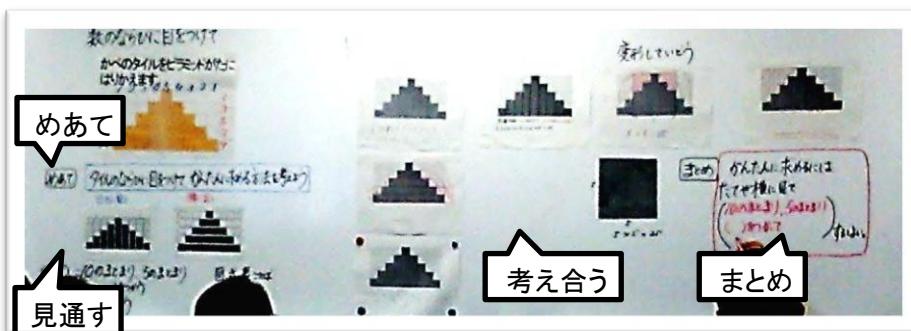


図2 授業の流れが一目でわかる前面黒板

「見通す」過程では、解き方をひらめいた児童の発言を取り上げて、つないだり補足したりして、他の児童にも解決方法を共有できるようにすることが大切です。

十分に見通しをもたせることで児童の考える活動が充実し、活発な意見交流につながっていきます。

声の広場 第2号の発行に際して、たくさんのメッセージをいただきました。一部を紹介します。(要約引用しています)

《西部型授業》について

- 西部型授業は、アクティブラーニングを基盤におく取組。中でも児童生徒の「主体的な学習」が重要だと思う。「学び合い」の中で児童生徒が認められる場面が増えれば、自尊心・自己肯定感が高まり、更なる学習意欲の向上につながると思う。
- 南波多小中学校では、「南波多メソッド」と名付け西部型の授業を学校なりにアレンジして小中9年間で、同じ授業展開ができるよう研究している。(「南波多メソッド」5つの基本的過程において、具体的な手立てを共有化する取組です。)
- 児童生徒の活用力向上研究に取り組んでいるが、小中の連携が難しい。また、児童生徒が自分の身に付けた力を認識して活用することが課題であると感じている。

今回は《課題設定のための手立て、めあてをつかませるときの工夫》について声をお寄せください。